

# 海外ボランティアレポート



コロンビア



山田進一郎さん  
数学教育

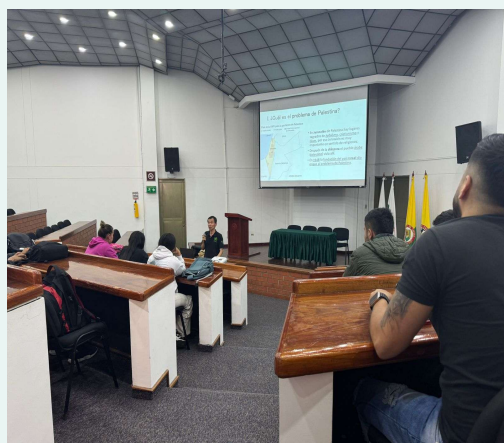
2年間の活動の振り返り

## | 歴史講演 |

コロンビア国立職業訓練庁（セナ）マニサレス校で数学教育の改善をはかる目的で2年間活動してきました。

こちらでは小学校から算数を暗記として教えられてきていて、自分で考えて理解できたり発見したりする喜びを体験できず、嫌いになっているのが現状です。セナに職業技術を学びに来る生徒も、数学や物理に対し拒否反応を持っていて、必要な基礎数学の習得が困難です。また、教員自体、数学が嫌いで理解も十分できないまま教えています。

なんとか考える楽しさや自分で見つける喜びを体験してもらおうと、面白いクイズのような問題を出して回答を募集したり、教員が教える授業と一緒に入ってアドバイスしたり、教員向けの数学コース（統計、確率を中心に行った）を開いたり、生徒向けと教員向けのワークショップを開いたりしました。生徒向けのワークショップで”ハノイの塔”をしたところ、一生懸命取り組んで時間が来てもやめない生徒も多く、印象的でした。いくらかでも考える楽しさを味わったり気付いたりして刺激になればと願うばかりです。



また、日本文化の紹介や折り紙の鶴などを教えたり、日本語の初歩を教えたり、世界の歴史について講演したり、頼まれたことをいろいろ実施しました。

こちらではアニメやテレビゲームで日本に興味を持ち、日本語を学びたいという人が多いです。折り紙もとても好評です。また、日本というと、広島原爆を一番に思いつくとよくききます。あとは地震（震災）、津波が続きます。世界の歴史講演では、世界の文明や宗教の歴史からパレスチナ問題までを解説しましたが、とても真剣にきいている生徒の表情が今でも目に浮かびます。





あわら市の小学校との交流

活動の終わり近くになって、地元のあわら市から依頼されて、5つの小学校とこちらの夜のクラスの生徒をオンラインでつないで交流をしました。

5年生、6年生が中心で、交流までに分担を決めて準備して発表してくれていました。コロンビアとは文化が違うので、こちらの生徒は楽しんで見ていました。紹介してくれたアニメはこっちでも知ってる人が多かったです。



現地の果物などの紹介

こちらからは、日本にない果物や収穫したばかりの生のコーヒー豆などを紹介しましたが、見たことがない変わった形や色などに驚いてる様子が見ええました。異なる文化に興味を持ち、相手を尊敬する気持ちを持つきっかけになれば幸いです。

帰国後も機会を見つけて体験談を語ったり、異文化交流の手助けができたらうれしいです。中南米のスペイン語を教える可能性も考えてみたいと思っています。言葉が通じれば、旅行したくなり、友だちができることもあり、世界が広がると思うからです。

県民の皆さまのあたたかい後援で、困難な2年間を無事終えることができたと思っています。ありがとうございました。





## エクアドル



## 兼上泰行さん

障害児・者支援

毎日を平和に丁寧に  
暮らすことの最前線で

### | 世界食糧デー ちらし寿司づくり |

エクアドルに海外協力隊として派遣されておよそ2年。「何とかここまで来た」というのが今の気持ちです。「非常事態宣言」や「夜間外出禁止令」が一度も解除されることなく、外出するときにはいつも身の危険を感じての生活が続きました。エクアドルのほとんどの家の周りには必ず壁が築かれています。そして、その壁の上は電気柵や有刺鉄線で覆われているのを見るたびに、犯罪の多さを肌で感じます。

また、時々、お腹を壊したり、熱を出したり、けがをしたりすることもありましたが、何とか健康で今を過ごすことができています。異国の地で協力隊員として活動するには、心の健康の大切さも身に染みて感じました。改めて、日本はとても平和で恵まれていると実感できる日々です。これまで犯罪に会うこともなく、心も身体も健康で無事に任期を全うできるのは、いつも支えてくれている方々のおかげだと心から感謝の気持ちで一杯です。ホームステイ先の家族はもちろん、同期隊員、配属先の同僚、日本の家族や友人は、何度も私のピンチを救ってくれました。

振り返ってみると、とても長かったように感じます。人には言えないようないろいろなことがありました。辛かったことの方が多いような気がします。また、言葉の壁はとても高かったです。私の未熟なスペイン語では細かな思いが伝わらず、毎日もどかしい思いをしていました。日本とは全く違う文化、習慣の中で、どこに自分の立ち位置を求めていいかわからないことも多かったように思います。



職場の同僚と子供達と  
おやつタイム



日本文化の紹介（折り紙）



エクアドル手話を  
入所者の方とともに学習

エクアドルの人の印象は、犯罪の多さとは裏腹に、私に関わってくれた方たちは皆、とても明るく陽気で優しい人たちがほとんどでした。また、どんな場面でも楽しみを見つけ、精一杯楽しもうとするたくましさがありました。遠足へ行って澄んだ川があるとそのまま泳いだり、停電が続いても毎日ろうそくの下で楽しく過ごしたり、懐中電灯をつけながら楽しそうに料理をしたり、夜の公園でペットを連れてのんびりした時間を過ごしたりなど、日本では経験できない過ごし方もあるのだなと知りました。



厨房のお手伝い



休憩時間のほっと一息タイム

私の配属先は、障害を抱える成人の方の保護施設です。私は活動全般について改善提案したり、障害特性や発達段階に応じた認知課題等について日本の手法を紹介したり、同僚に対して自身の経験等を紹介したりしてきました。しかし、なかなか思うようにボランティア活動が進まず、自分の無力さを痛感することの方が多かったです。

入所者それぞれが重い障害を抱え、また家族も身寄りもなく、この施設を生涯の暮らしの場として、その中で人とのつながりをとても大切にしている姿がありました。これまで自分は、「家族」という単位を、祖父母、父母、そして子というものでしか測ってきませんでした。しかし、ここに来て、入所者それぞれが互いを支え合っているこの共同体も、一つの家族なのだと思うようになりました。女性の先生を「ママ」、「マミー」、男性の先生を「パパ」、「パピー」と呼びます。私は「やっさん」、「パパ」または親愛の情を込めて「パピート」と呼ばれています。また、いつの頃からか、入所者の方をミーイーホ、ミーイーハ、ミーアモール（スペイン語でmi hijo「私の息子」、mi hija「私の娘」、mi amor「私の愛する人」）と呼んでいる自分がいます。障害を抱えながらも誰一人として自己評価を落とさず、毎日を丁寧に暮らすことの最前線に、私のようなものが一緒に生活をさせていただいたことは、とても貴重な経験になりました。そして、これまでの自分自身を振り返るととても大切な機会をもらえたことに心から感謝したいと思います。

帰国まで、あと少し、あと少し。心と身体の健康第一で自分のボランティア活動をやり切りたいと思っています。

帰国後は、エクアドルで得た経験を是非、次代を担う若者へ伝えていきたいです。また、自身のこれからの生き方の大切な糧にしたいと考えています。



最後に、私の大切なエクアドルの家族へ。  
この2年間、いつも大きな愛で、  
私の心と身体を温かく支えてくれました。  
心から感謝しています。ありがとうございました。





ブラジル



## 万久弘子さん

日本語教育

日本の反対側にある  
ブラジルの日本語学校

### 文化教室

私は、ブラジルのサンパウロ市から約500km離れたアラサツーバ市にある日本語学校で2年間活動してまいりました。

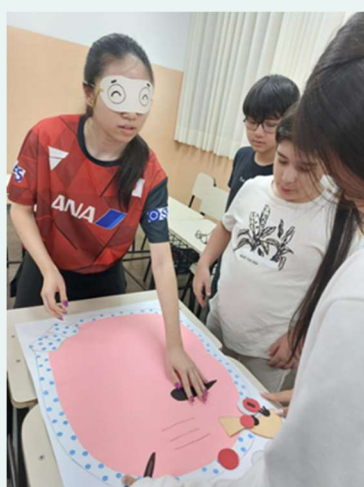
ブラジルは日本の真反対の国で、季節も逆です。なお、私の配属地は1年を通して夏のような暑さでした。40度近くまで気温が上がる日もよくありました。でも、こちらでは「熱中症」に罹患したという話を聞いたことがありませんでした。生まれたときから暑い気候の中で生活すると暑さへの耐久力も自然とついてくるのでしょうか。私が配属先に着いたのは、真夏で部屋にはエアコンがなかったため、凍らせたペットボトルを抱いて寝ていました。このような日々も今となれば貴重な経験となりました。



ぶんぶんごま



紙相撲



福笑い

さて、配属先である「アラサツーバ日本語普及センター」での主な活動についてですが、この日本語学校の使命が「日本語」と「日本文化」を後世に残すこと及びブラジル社会や世界に広めることでした。そのために、学習者の日本語能力向上と適切な学習教材の整備や日本文化の紹介を行いました。「会話教室」では、身近な生活や日本での生活の場面を設定して、日本語でコミュニケーションをとる授業をしました。なお、季節の行事や学校のイベントも大変多く、多岐にわたる活動ができました。

その中で、最も印象に残っている活動は、日本文化を通してより日本に興味をもってもらえるように行った「文化教室」でした。対象が子どもたちなので、楽しみながら日本文化に触れることができる内容にしました。「ぶんぶんごま」「紙相撲」「折り紙」「あやとり」「福笑い」など、日本に古くからある遊びを取り入れました。例えば、「紙相撲」を作る前に「日本のスポーツ」としての相撲を紹介するという風にして興味をもって取り組んでもらえるようにしました。



なお、私の任地は「日系社会」が根付いているので、日本語で話しかけてくれる方も多く、タクシーの運転手さんも「こんにちは」「ありがとう」と挨拶をしてくれました。歯の治療を受けたのですが、近くの歯科医も日系人であったため、安心して通院することができました。

帰国後も、日本語講師のボランティアを続けていきたいと思っています。配属先では、子ども対象に日本語を教える機会がほとんどでしたので、子どもから成人まで幅広い年齢層、そして生活のための日本語を教える活動をしていきたいと思っています。

